

憾満ヶ淵

この風光明媚な溪谷は、すぐ上の華巖の滝に源を発しており、男体山から流れ出た古い溶岩流でできています。昔からこの場所を訪れた多くの人々が、ここで不動明王の夢を見たといいます。不動明王とは、仏教の the five wisdom kings(=5 大明王)のなかでも中心となる明王です。火炎の刀で世俗的な欲望を切り取り、修行僧を守護する存在。この岩にこだまする水の音は、不動明王の真言を唱える声に似ているとされてきました。

この溪谷は東照宮の創建に携わった高僧・天海の 17 世紀の高弟・晃海大僧正が設計しました。この溪谷の名は不動明王の真言の最後の言葉である“カンマン”から取られたものです。17 世紀、この憾漫ヶ淵は人々で賑わう聖なる場所でした。1689 年には、有名な俳人・松尾芭蕉も憾漫ヶ淵を訪れています。